

人間の経済

第2期 第 **20** 号 (通巻98号) 2005年5月23日刊

目次

ワット説明法、ひとつ

森野 榮一

[wija/iWAT Tips] 増・減価型ワットと「義の用」

森野 榮一

ワット説明法、ひとつ

森野 榮一

ワットの説明をする機会が増えるばかりです。そこで、こういたしています。
使用したのはハピータイプのワット券です。

参加者の前に説明者（A）が出て、その人を取り囲むように円形に机と椅子をならべて座ります。

提供しうる財あるいはサービスを書いたカードを事前に用意し（人数分×2）参加者にくばります。「えっと、これからワット券の説明をさせてください。」といいながら、一人あて2枚くばります。筆記用具も必要なくばります。

説明者（A）は、未発券ワット券の説明をはじめます。

これは個人間の貸借を証するものです。借用証書と書いてありますね。
借りを証するものですが、金銭貸借ではありません。ここでワットというのは単位です。
なにを基準にしているかということ、クリーンな自然エネルギーを市民が発電するときのコストを参照しています。いま1kWhを発電するのに100円から70円かかっているそうです。でも電力会社が購入してくれるのは20円強ですね。しかい、自然エネルギーの推進を願う私たちは、その原価のとおり参考にします。ですから1ワットは100円くらいに相当します。

そうして右か左どなりの人（B）と、発券取引を開始します。

「Bさん、お手元にあるカード、なんでしょう。」

「バイオリンを弾く、と野球指導です」

「あ～、バイオリンを弾いて欲しいですね」

といて、AはBからそのカードをもらいます。

「わたしはいまバイオリンをBさんに弾いていただきました。とてもすばらしい演奏でした。お礼を差し上げなければなりません、（といてて手元にくばられたカードを読み）わたしは受験勉強の指導ができます、また、おもちゃのソーラーカーがありますがいかがですか。」とBに申し出ます。

B：「う～ん、いまはどちらも不要です。」

A：「では、ワットの借りを立てさせてください。」

B：「いいですよ」

Aは発券先にBの名を書き、自分の名を書き、（ハッピータイプですので）手持ちの二枚のカードのうちの一つを提供可能な財・サービスを書く欄に記入してBに渡します。

Aは説明役として、こう説明します。

「これでワット券が成立しました。発券取引といいます。このワット券はBさんがわたし（A）にバイオリンを弾くサービスを提供してくださった代わりに1ワットの借用証書を渡したわけです。これは金銭を返済するという約束ではありません。ワット券には市民共同発電所の債券か返済の申し出があったとき合意できる財かサービスで返すとの約束が記載してあります。いま使っているハッピー券の場合は市民共同発電所債での返済を約束する文言が入っていませんので、自分の提供できるものを書く欄がありますね。それで私（A）は「受験勉強指導」と書きました。」

「この取引を発券取引といいます。ここでAとBさんの二人の個人の間でワット券ができあがりましたね。この個人の間でワット券は生まれます。そしてBさんは私が提供できるものを必要としていませんでした。そこで、Bさんは自分の所望の財やサービスを持っている人から、それを入手するときにこのワット券が使えないか試みることになります。」

「ここから始まるのを通常取引といっています。」

Bは隣のCにこう聞きます。

「あなたが持っているカードはなんですか。」

C：パン作りを教えることができますし、自家製のパンがあります。」

B：「パンをわけてくださいますか。」

C：「いいですよ。」

説明役のAがこう説明します。

CさんからBさんに「パン」が引き渡されました。おいしそうですね。Bさんはこういいます。

B：「お礼をしなければなりません。私は、花作りが趣味ですので相談にのれます。また、パソコンも好きですので、教えることができますが、いかがでしょう。」

C：「いや、いまのところ必要ないですね。」

B：「では、このAさんが発行したワット借用書でお礼するのでよいでしょうか。」

C：「あ～、Aさんですか、知っていますよ。なかなか楽しい方ですね。OKです。」

説明役Aはこう説明します。

そこで、Bさんはワット券の裏書き欄に、日付と支払先（Cさん）と使用者（Bさん）の名前を記入し、自分のウリであり、提供できるものであり、そう宣伝にもなりますから、自分の提供できるパソコン教授と書きます。そうしてBさんはCさんにワット券を渡します。

CさんはBさんがCさんにしたようにDさんに聞き、同様にします。事は順にぐるりと参加者のあいだで行われていきます。説明役は適宜、取引の手順をアドバイスしていきます。そうして最後のZさんにワット券が渡ります。

ZさんはAにこう聞きます。

「あなたが発券したこの券の、ここに受験勉強の指導と書いてありますね。」

A：「ええできますよ。」

Z：「うちのこどもの受験勉強を指導をして欲しいのですが」

Aはそれを受け入れます。Aが発券したワット券がAに戻りました。

説明役のAはこれで一枚のワット券の一生が終わったことを説明します。そうして、こういいます。

「みなさんのお手元をみてください。最初もっていたカードと違ったカードが一枚ありますね。それはひとりひとりが所望したものでした。それを各人が入手しました。私たちは、現金を使っていませんね。しかし私を信用してくださったBさんのおかげで、またみなさんのおかげで私は必要なものを手に入れ、代わりに自分の能力でお礼をすることができました。」

「この券がDさんの手元にあるときは、Dさんが私の借りを背負ってくださいました。ありがとうございます。」

「Eさんの手元にあるときはEさんが背負ってくださいました。ありがとうございます。」

「そればかりか、DさんはEさんにワット券を支払って所望のものを入手しました。EさんもFさんにそうすることができます。そうしていまZさんがわたしの提供出来るサービスを望んでくださいました。そして私の手元にワット券は戻りました。」

「裏に書かれたみなさんの記名と情報は、私がこれらのひとたちに支えられた証です。同時にみなさんはじぶんの益になる所望のものを手にいれました。人を支援するとじぶんの益になる、あるいは、じぶんの益になることをして人を支援する、これがワットです。」

「そうしてもし、最後の清算する人が市民共同発電所債で返済するなら、その債券の購入には円貨が使われますので、自然エネルギーの推進が支援されることになるでしょう。」

このように、参加者に実際に使ってもらいながらワットを説明するとワットを容易に理解していただけるかもしれません。

増・減価型ワットと「義の用」

森野 榮一

増・減価ワットは相互支援の枠組みとして、少しずつ使われはじめているようです。これがどの程度活用されていくのかは、私たちの相互連帯の程度に依存しているでしょう。

減価型（ROT）は、例えば、AがBにBの必要とするものを渡したが、Aは余裕があり、Bの事情を斟酌し、時が経過するほどに、Bの約束するワット債務が減額するワットを受け入れることで支援する枠組みとして、

1 , 増価型（MOT）は、BはAから必要なものを手当てしたが、そのモノが値打ちがたとえば20ワットと思っているが、いま20ワットの支払約束に躊躇し、10ワットなら可能で、5年後には支払約束が20ワットになるのであれば大丈夫だと思っていて、Aもそれを受け入れる場合に、成立したり、

2 , あるいは、円貨による支援を受けた場合、代わりに円貨放棄の代償分を時の経過のなかで成立する増価分でカバーするような枠組みとして利用されています。

これは、江戸時代、琉球にいた哲人政治家、蔡温（1681 - 1761：林業への卓見を述べ、実施した人として知られています）のいう「義の用」を現代の文脈において実現する手法であろうかと考えています。

蔡温は財欲を批判し、合理的な予算配分によって家計運営をなすことで財利を実現すべきを説いたのですが、その予算配分を家計がなすにつき、かならず黒字の世帯は赤字の世帯を扶助する「義の用」を必須として、これを勧告しました。

この考えは、大きくはケインズの清算同盟案における黒字国がマイナスの利子を受け入れ「義の用」を果たすという発想にも繋がるでしょうが、蔡温が国民各層にこれを説いたことを考えますと、私たちひとりひとりが、個人対個人の関係のなかで、義の用を果たせる枠組みとして、減価型（ROT）, 増価型（MOT）ワットは、その要求に応えることができるものではないでしょうか。

その実際はこうです。

いま、私のアイ・ワット帳を開いてみましょう。

ワット帳に収めてある手持ちワット券の<番号>、<額面>、<単位>、<状況>の部分は下記のような実際になっています。

券	記録箱	番号	額面	単位	状況
		1347003443	1	kWh	使用可能
		1740894177	1	kWh	使用可能
		1358792623	1	kWh	使用可能
		1642879755	10	kWh	承認待ち
		1468103225	1	kWh	承認待ち
		536605882	5	kWh	使用可能
		1139407022	2	kWh	使用可能
		1617421048	5	kWh	使用可能
		155160209	10.06	kWh	使用可能
		535418584	9.94	kWh	使用可能
		2054922076	10	kWh	使用可能
		1314322565	1	kWh	承認待ち
		180380791	1	kWh	使用可能

ここで、額面が 9.94 ワットになっているワット券が、初期額面価額が 10 ワットであった減価型ワット券です。ブルーハイライトにしてあるところです。

この券の情報をみてみましょう。メニューバーの「iワット券」を選び、そこから「情報を見る」を選んで、クリックします。

The screenshot shows a menu titled "iワット券" (i-Watt券) with the following options:

- 新規 (New)
- 使う... (Use...)
- 新券と一緒に使う... (Use with new tickets...)
- 情報を見る... (View information...)
- 無効にする... (Invalidate...)

The background shows a table with columns for "番号" (Number) and "額面" (Face value). The row with number "535418584" and face value "9.94 kWh" is highlighted in blue.

番号	額面
1347003443	1 kWh
1740894177	1 kWh
1358792623	1 kWh
1642879755	10 kWh
1468103225	1 kWh
536605882	5 kWh
1139407022	2 kWh
1617421048	5 kWh
155160209	10.06 kWh
535418584	9.94 kWh
2054922076	10 kWh
1314322565	1 kWh

そうすると次のように、指定したワット券の情報が表示されますね。なお、下記の絵は差し障りのない一部分を写してします。

ここで、週マイナス0.1%で減価し、減価がゼロワットまで続く(つまり完全消滅型)タイプの減価型ワットということがわかります。発券者の債務は、減価する形でこのワット券を使う人たちによって担われていくわけです。

増価型はどうでしょう。ここにありますがね。

番号	額面	単位	状況
1347003443	1 kWh	kWh	使用可能
1740894177	1 kWh	kWh	使用可能
1358792623	1 kWh	kWh	使用可能
1642879755	10 kWh	kWh	承認待ち
1468103225	1 kWh	kWh	承認待ち
536605882	5 kWh	kWh	使用可能
1139407022	2 kWh	kWh	使用可能
1617421048	5 kWh	kWh	使用可能
155160209	10.06 kWh	kWh	使用可能
535418584	9.94 kWh	kWh	使用可能
2054922076	10 kWh	kWh	使用可能
1314322565	1 kWh	kWh	承認待ち

現在、増価して10.06ワットになっていますが、初期額面は10ワットでした。これもワット券情報を見てみましょう。

週0.1%で増価して行き、額面が11ワットになった時点で増価が停止するカレンダーマネーになっていることがみてとれます。

これらは、私たちの連帯と支援、相互の責任性を保障しあう仕掛けとして、私たち

の社会的関わりに「義の用」を実現させるツールとして、活用されはじめました。これらのツールを使いうる社会関係は私たち一人ひとりに人間性を拡充するチャンスを与えてくれるでしょう。これらの仕組みは私たちに真の仲間を発見させてくれるでしょう。

編集・発行 **ゲゼル研究会**

221-0021 横浜市神奈川区子安通3-321森野榮一気付

Gesell Research Society Japan <http://grsj.org/> info@grsj.org

Gesell Research Society Japan all rights reserved 許可無く複製・再配布を禁ず